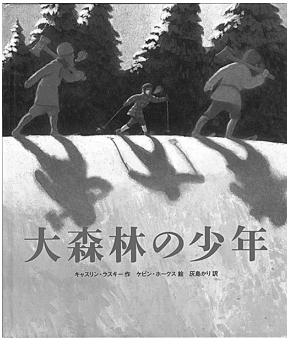


呼ばれたインフルエンザの大流行があり、マーベン少年の両親は、一人息子を感じから守るために、カナダの国境周辺にある森林伐採場（＝森）に送ることにする。予防接種も抗生剤もない当時、インフルエンザはおそろしい病で、年長者や年少者がバタバタと死亡していった。感染を避けようとするなら、汚染された地域から逃げるのが唯一の方法だったのだ。マーベン少年は一人で、遠く離れた奥深い森林に行き、そこで伐採作業員たちと共に冬を越し、春になって帰宅する。少年は何とか難を逃れた家族と再会する。

### 階段に座る少年

ここから二冊の絵本の絵を比べていくが、『おかあさんのたんじょう日』は縦書きにするために原書の絵を逆版印刷しているため、ここでは原書の絵を掲げることが最初に断りしておく。『大森林の少年（以下、大森林）』の最初の見開きで、マーベンは階段に座って（図2）、両親とお



（図1 『大森林の少年』表紙）

じさんおばさんとの会話を聞いている。

この場面を『おかあさんのたんじょう日』（以下『おかあさん』）の最初のページ（図3）と比べると、少年がページの進行方向を向いて（ポジティブ）の方向であり、

出かける方向でもあ（る）身体を小さく丸めて、階段に座っていると（ポジティブ）の方向であり、出かける方向でもあ（る）身体を小さく丸めて、階段に座っていると（ポジティブ）の方向であり、出かける方向でもあ（る）身体を小さく丸めて、階段に座っていると（ポジティブ）の方向であり、

さらに背景となっている階段は、画面を立体的に見せるだけでなく、これから少年が歩む「成長の階段」を示唆するものでもあるだろう。前回、ダニー少年の足もとのおもちゃひとつが、この家の雰囲気を与えていることを書いた



（図2 『大森林の少年』より最初の見開き）